

第 8 回 府中町公共交通協議会 議事録

■開催日時 令和 4 年 3 月 18 日（金）13：30～16：00

■場所 府中町役場 5 階 第 1 委員会室

■出席者 委員 14 名（欠席 2 名）

■説明者 府中町建設部都市整備課

■議題 1) 会長の選任

大東会長を選出する。

【大東会長】

本協議会は府中町地域交通網形成計画の策定及び実施に関する協議を行うため、平成 30 年 2 月に設置された。

令和元年度 11 月、府中町地域公共交通網形成計画を策定以降、この協議会では、「広島で一番おでかけしやすい町」を目指すための具体的な施策として、公共交通ネットワークの充実と公共交通不便地域における公共交通サービス水準の向上について重点的に審議してきた。

本日はこれらの施策につながる「つばきバス」と「デマンド・タクシー」に関する取り組みが実を結び、来年度から本運行へ移行するという事で、この本運行に向けた最終的な内容について皆様と議論したいのでご協力を賜りたい。

■議題 2) つばきバス運行見直しについて

【事務局】

つばきバス運行見直しの結果及び実証運行の内容で本運行とすることについて説明

【委員】

つばきバスについては半年間というコロナ禍で実証され、まだ足りないのではないかと記入されている。この点については、今後さらに調査・見直しをするのか。

【事務局】

6 月からのつばきバスの運行については実証運行から変更なしということであるが、今後の道路整備等により交通事情が大きく変わる場合には、その都度ルート等を見直す必要があると考えている。今後は、そうしたタイミングに合わせ効果検証を行い、必要に応じ見直して行きたいと考えている。

【委員】

マツダ本社前の利用者が多い要因は何か。

【事務局】

つばきバスの利用目的は買物が最も多く、次に通院が多いという現状から、マツダ本社前はマツダ病院の利用者が多く乗降していると考えられる。

【委員】

イオンモールの乗降が増えた要因として、路線バスがイオンモールに入らなくなった影響もあるのか。

【事務局】

確かに広電 2 号線府中山田行きがイオンモール広島府中を経由しなくなったが、路線バスについては今回の利用実態調査では対象としていないので、因果関係は分からない。

【委員】

利用実態について PASY データを用いて分析しているが、広電が PASY を廃止するということに対して、今後どのようにデータを蓄積されていくのか。

【事務局】

PASY のサービス終了は 2025 年（令和 7 年）の予定であり、当面、令和 5 年度の公共交通網形成計画の見直し等には PASY データが使用できる想定である。その後については、新しいシステムの詳細が未定であり、今後、運行事業者と協議しながらデータの収集方法を検討していく。

【大東会長】

つばきバスを不便と感じることについて、南北間の移動についてはある程度覚悟していたが、その他については、サービスの提供方法が変われば個々の方には自分の使い方と合わなくなる点が生じるのは当然である。実験期間は新型コロナ禍の真最中であったが、それにも関わらず利用者がいたということからするとある程度の効果はあったと考えられる。また向洋駅北口でのバス乗入が始まれば、プラスの要因になると思う。

【委員】

実証運行期間中、利用されない町民の意見等はどのような様子だったか。

【事務局】

つばきバスの実証運行の内容については、昨年 5 月の広報ふちゅうにあわせ各世帯に配布した。

その後、5 月・6 月について、問い合わせ内容を記録していたが、時刻表の見方、路線図の見方等に関する問合せが殆どで、ルート変更に対する苦情等は殆どなかった。特に北エリアとマツダ病院の往来について所要時間が増える為、それに対する意見等が寄せられることを想定していたが特にはなかった。一方、つばきバスの利用者には昨年 9 月にアンケート調査を行っており、資料でお示ししたとおり、便利と不便が半々であり、不便のうち約 3 割が時刻表等のわかりにくさを理由に挙げていた。

【大東会長】

町に出された意見については正しく記録していくことが重要である。引き続き、町に寄せられた意見についても把握をお願いしたい。

つばきバスの運行見直しについて、事務局案を承認ということによいか。 ⇒ 承認

■議題 3) つばきバスの料金改定について

【事務局】

つばきバスの料金体系について ①通常運賃を 150 円に値上げすること ②小学生・障害者割引の適用を開始すること ③定額サービスを新規導入することについて説明。

【委員】

料金改定を行うより、利用者を増やす方法を検討してはどうか。町民がいかに利用しやすくもっと多く利用するかを考えることが重要である。

【事務局】

これまでのつばきバスの財政状況からすると、利用者が増やしていても、どこかのタイミングで限界が来ると考えている。

利用者を増やす手立てを検討することも非常に重要であると考えており、今回は、ただ単に値上げをするだけでなく、多く利用される方が今までと同程度の負担で利用可能な制度ということで、定期券のような定額サービスを展開していこうと考えている。

定額サービスの実施方法については、使いやすく分かりやすい方法の検討が必要である。

昨年度、新型コロナの臨時創生交付金を活用して「おでかけクーポン」を発券した際に、PASPY がチャージ可能な拠点まで公共交通機関等で移動する必要があったことについて多くのご意見をいただいたことから、今回の定額サービスは自宅でも購入可能なデジタルチケット

「MOBIRY」の活用が最適であると考えている。また、「MOBIRY」については、スマートフォンとクレジットカードが必要なことから、役場等の町内拠点で購入できる紙媒体のものを併せて検討している。

【委員】

簡単にカードにチャージできるような、町独自のサービスは考えられないのか。

【事務局】

現在つばきバスはPASPYを導入しているが、PASPY 廃止後のサービスについては、新しいシステムの活用を含め、随時皆さんの意見を取り入れながら、広電と協議し検討していきたいと考えている。

【大東会長】

資料では、「MOBIRY」の導入を前面に出し過ぎていて、利用者にとっては新しいサービスへの抵抗感や誤解が生じる可能性がある。紙媒体がまずあって、その上で「MOBIRY」も使えるということを示すべきだと考える。広報等での表現の仕方についてはそこを考慮していただきたい。

なお、PASPY は全国で同様のシステムがあり、PASPY 協議会全体で運用しているため町は安価に利用できているが、府中町独自でシステムを作るとなると莫大の費用がかかることが想定される。今後のサービスを検討する際には、費用面も含めどのあたりが落としどころか検討する必要がある。

【委員】

料金改定について、障害者の付き添い割引はないのか。

【事務局】

路線バスと同様に障害種別に応じた介護者の割引適用を考えている。

【委員】

免許返納者を対象とした割引の適用はないのか。

【事務局】

免許返納者に関しては、府中町地域公共交通網形成計画において「高齢者の外出機会の確保」として、今後免許返納者等が増えていく中で、自家用車を利用せず外出できる環境を整えていくこととしている。今回の料金改定と同時に実施できるかは分からないが、併せて検討していきたい。

【委員】

つばきバスのPASPY利用率はどの程度か。100 円から 150 円に値上げすると、ワンコインの便

利さがなくなり利用が敬遠される可能性があると考える。PASPY の利用率が高いようであれば、こうした不安はなくなる。

【事務局】

現状の利用率は、50～60%程度である。これまでの取り組みとして、昨年度配布した「おでかけクーポン」では PASPY 購入にも利用できるようにするなど、PASPY の利用促進を図ってきたところである。

【委員】

公費負担割合の設定が試算ごとに異なっているのはなぜか。

定額料金の導入は各地で注目されており、これによる利便性の向上、外出機会の増加による活性化が期待されている。府中町では人口規模やデータの蓄積状況から、効果等が把握しやすい状況にあると思われる。府中町での事例が他の市町の参考になると考えている。

【事務局】

公共施設使用料を参考とした試算は、公民館等の貸出施設の施設利用料算定の原価計算式を参考にしている。性質別の受益者負担率では 75%となるが、直ちにこれを目標収支とするわけではない。公共施設使用料の算定においても、ここから、施設個別の状況を勘案し調整をしたうえで使用料を決定している。つばきバスにおいては、運行見直しの効果を最大限反映させた結果、資料で示す試算結果となっている。

【大東会長】

公費を投入する事業として、どこまで受益者負担を求めるかというのが、コミュニティバスを運営する際の難しさである。そのためにも、収支状況等の広報により透明性を確保し、皆さんの意見を聞くことが必要となってくる。

コミュニティバスの考え方が登場したのは、昭和の終わりごろである。平成に入り武蔵野市が 100 円均一運賃でコミュニティバスを始め、その後、平成の間に同様のコミュニティバスが多く発足した。約 30 年が経過した今、料金を見直すタイミングではあるかと思う。

また、路面電車では、PASPY の普及により各電停の降車時間が短縮され、西広島-広島駅間の所要時間が減少したという事例もある。そういった新しいシステムの普及により公共交通が便利になるということも考えられる。

【大東会長】

様々なご意見をいただいたが、事務局案を承認するということでよいか。 ⇒ 承認

■議題 4) デマンド・タクシー導入検討について

【事務局】

デマンド・タクシーの本運行について、一部内容を変更し本運行へ移行することについて説明

【委員】

「いくでえ」について、バスの老朽化や運転主の高齢化・不足により運行継続が難しくなっていることから、デマンド・タクシーに代わることはできないか。

【事務局】

事務局が把握している範囲では、「いくでえ」は対象者をふれあい・いきいきサロン参加者の概ね 75 歳以上に限定しており、地域公共交通として存続について考えることは適当でないという認識である。「いくでえ」の存続については、当該事業の意義を踏まえ、社会福祉協議会とし

て検討していくべき内容と考えている。

【委員】

デマンド・タクシーの予約の方法はどういう形態か。

【事務局】

電話またはFAXで予約し、名前や住所を伝え、自宅に迎えに来てもらうというシステムである。1回予約すると、名前や住所は登録されるので、2回目以降は基本的に乗りたい便と行先を告げてもらうだけとなっている。

【大東会長】

高齢化が進むと新しい公共交通サービスが求められ、デマンド・タクシーのようなシステムが必要となる。実施にあたっては、利用者への情報提供が重要となるので、本協議会を通じて皆さんに利用方法を把握していただき、周知にご協力いただきたい。

【委員】

デマンド・タクシーの帰宅時の乗車方法はどうするのか。

【事務局】

行きと同様に予約することで、決められた乗降バス停から乗車することができる。

【大東会長】

利用できるエリアは。

【事務局】

乗降バス停間での乗降はできないが、乗降バス停間と清水ヶ丘・桜ヶ丘団地間での利用が可能である。

【大東会長】

新しいシステムで分からない点がいろいろあると思うが、利用方法の周知に当たってはみなさまの協力をお願いしたい。

【委員】

10月に本格運行となった場合、補助金や本格運行までの手続きの流れはどのように考えられているか。

【事務局】

フィーダー補助金を受けるために必要な計画や公共交通不便地域の認定手続きについて、公共交通協議会において当該認定に係る協議会の承認を得る予定としている。府中町において当該補助金の申請は初めてであり、運輸局とも相談をしながら進めていきたいと考えている。

【大東会長】

デマンド・タクシー導入検討について、事務局案を承認するという事でよいか。 ⇒ 承認

■議題 5) 府中町地域公共交通網形成計画の中間見直しについて

【事務局】

府中町地域公共交通網形成計画の中間見直しについて、令和5年度へ延期することを説明

【大東会長】

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今後の利用者の動向が不透明であり、令和4年度の時点では取組に対する十分な効果検証が難しいということで、スケジュールを後ろ倒しにするということである。府中町地域公共交通網形成計画の中間見直しについて、事務局案を承認するという事で

よいか。 ⇒ 承認

■報告 1) 府中町地域公共交通網計画に係る取組(公共交通利用の意思啓発)の実施について

【事務局】

府中東小学校 2 年生の公共交通利用に関する課外活動を紹介

【大東会長】

学生でも公共交通を殆ど使わないという人がいるため、公共交通機関の利用促進を図るには、こうした取組が非常に重要であると考えます。

■その他

【事務局】

向洋駅北口の仮駅舎が供用開始されたことに伴い、つばきバスの向洋駅乗り入れについて令和 4 年度から検討に着手する。検討の進捗状況については、協議会において適宜報告等を行う。

次回協議会は、4 月下旬～5 月上旬を予定している。協議内容としては、「つばきバスの定額サービスの詳細内容について」、「デマンド・タクシーの国庫補助申請に係る地域内フィーダー系統維持確保計画等の内容について」審議いただく予定である。

なお、今回と次回の審議結果については、5 月下旬ごろに町議会へ報告させていただく予定である。

■閉会